

と畜検査について ～精密検査編(細菌関係)①～

1 精密検査とは？

牛や豚を食用とするために、と畜場法に基づくと畜検査を実施しますが、その検査時に食用として流通させるべきではない疾病を疑った場合、肉や内臓を一時的に保留し、診断を確定するために精密検査を実施します。

例えば、心臓の検査時に、心臓の内側にイボのようなものを確認した場合、敗血症(http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000089/89799/ushi_No3.pdf)を疑い、敗血症の証明と原因菌を明らかにするために細菌検査を実施する事例がこれにあたります。

当検査部門で行っている精密検査は、ミクロレベルで病変を診断する病理検査、血液の状態等について生化学的な検査を行う理化学検査、原因となる細菌等をつきとめる細菌検査等があります。

今月から4回に分けて、細菌検査の内容について紹介します。

2 細菌検査のおおまかな流れ

検査の方法はいろいろありますが、大雑把に表すと、以下の手順が当検査部門の主な検査の流れです。

- (1) 病変部を培地（調べようとする細菌が増殖しやすい栄養が入った液体やゼリーのようなもの）に入れる、または塗り付ける。
 - (2) (1)の培地を一定の温度で培養し、細菌を増殖（1～6日間）
 - (3) 培地における細菌の増殖した塊（コロニー）の確認、増殖させた細菌を染色・鏡検して形状や色を確認し、細菌の遺伝子や生化学的性状の検査を実施
- * (3)の結果から
- 〇〇菌を確認し、××という疾病確定→内臓・枝肉全部廃棄
 - 〇〇菌を検出せず、××という疾病を否定→保留解除（合格）



各種培地



培地にはえたコロニー（菌塊）



細菌の種類を同定する検査キット

次回から細菌の各検査方法等を紹介します！